

社会教育関係職員の研修に関する実態調査（報告）

調査の概要

1 調査の目的

平成18年12月の教育基本法改正により新たに「生涯学習の理念」が規定され、平成20年2月には中央教育審議会「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について～知の循環型社会の構築を目指して～」(答申)が出され、そして、6月には社会教育法が改正された。これらの中では、生涯学習振興行政の中核を担う社会教育行政の役割の重要性や社会教育関係職員の役割への大きな期待が指摘されている。今後、社会教育行政は、県民を対象とした社会の変化に適切に対応するための学習機会の充実を図り、社会全体の教育力を向上させる取組等を推進していくことが課題とされている。

こうした中、群馬県生涯学習センターでは、社会教育関係職員の資質向上を図る研修の重要性をかんがみて、効果的な研修事業の企画や各市町村との連携協力に資するために、本実態調査を行った。

2 調査の対象

県内38市町村教育委員会生涯学習・社会教育主管担当課（係）

3 調査の方法

調査票による自記式の質問紙法で、平成21年1月16日に配付し、2月6日を提出期限として回収した。

4 調査の内容

市町村社会教育関係職員の研修に関する現状と課題

質 問 事 項	
問 1	社会教育関係職員を対象にした市町村主催の研修の実施状況
問 2	県生涯学習センター主催の各研修のうち職員を派遣したもの
問 3	県生涯学習センターの研修に職員を派遣する場合の障害となるもの
問 4	職員に「身に付けてほしい資質能力」
問 5	県生涯学習センターの研修で重視してほしいレベル
問 6	県生涯学習センターの研修で重視してほしい方法
問 7	県生涯学習センターの研修で職員に学んでほしい具体的なテーマ
問 8	県生涯学習センターの研修機能として期待すること
問 9	市町村の生涯学習推進に関して日頃考えていること 県生涯学習センターの全般的な役割や機能に期待することや要望

本調査では、社会教育関係職員を生涯学習・社会教育行政職員及び公民館等社会教育施設職員とした。

5 調査の回収結果

市町村教育委員会生涯学習・社会教育主幹担当課

配付数（38） 回収数（38） 回収率（100）

調査結果の概要

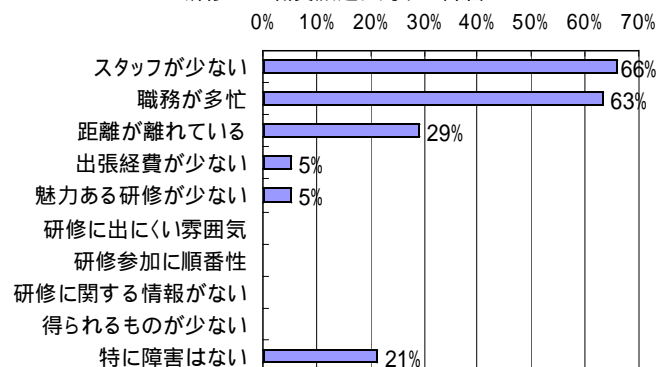
1 社会教育関係職員を対象とした研修の機会

社会教育関係職員を対象とした研修は、現在、国、県、市町村、関係機関・団体等により実施されている。県では、地域の特性や課題に応じた研修内容を積極的に取り入れるため、全県単位の研修と、各教育事務所を単位とした地区別研修を実施している。市町村では、3市（前橋市、高崎市、伊勢崎市）と、5町連携で1郡（邑楽郡）が実施している（教育事務所単位で行っている吾妻郡及び利根郡を除く）。このことから、最も身近な場における現職研修が十分とは言えない状況にあることが分かる。

2 研修に職員を派遣する上での障害

当センターの実施する研修に職員を派遣する上での障害について聞いた。「特に障害となることはない」という回答は21%あるものの、多くは「スタッフが少ない」（66%）、「職務が多忙」（63%）と考えている。このことから、それぞれの職場の職員体制等の面から、日常業務が優先され、積極的に研修に参加できない状況が考えられる。特に公民館では、職員が1人体制のため、研修に出られないという回答もあった。

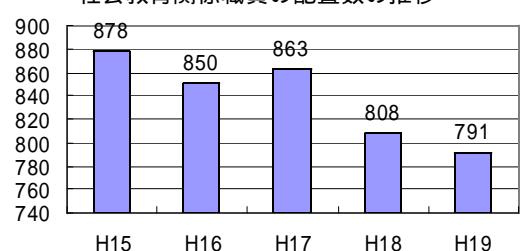
研修への職員派遣に対する障害



《参考》社会教育関係職員の配置数の推移

厳しい財政状況、地方分権の進展、さらには市町村合併による行政体制の再構築などを背景に、県内の38市町村の社会教育主事をはじめとした社会教育関係職員の配置数は、毎年減少傾向にある。（群馬県教育委員会生涯学習課『施策の概要』平成16～20年度 から）

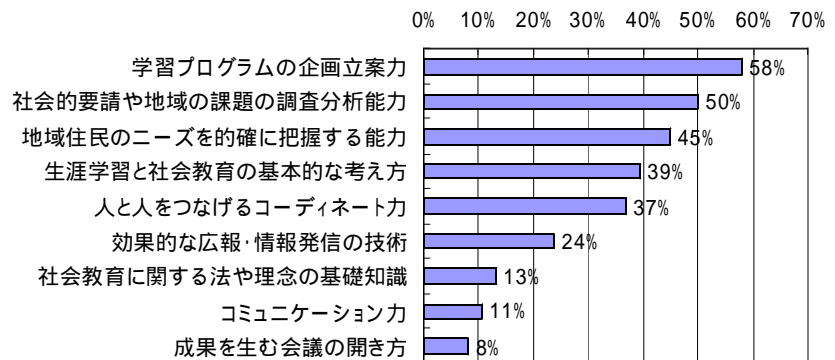
社会教育関係職員の配置数の推移



3 今後身に付けてほしい資質能力

社会教育関係職員が職務を遂行する上で、身に付けてほしい資質能力としては、「学習プログラムの企画立案力」(58%)が最も多く、次いで「社会的要請や地域の課題等の調査分析能力」(50%)、「地域住民のニーズを的確に把握する能力」(45%)、「生涯学習と社会教育の基本的な考え方」(39%)、「人と人をつなげるコーディネート力」(37%)となっている。

身に付けてほしい資質能力

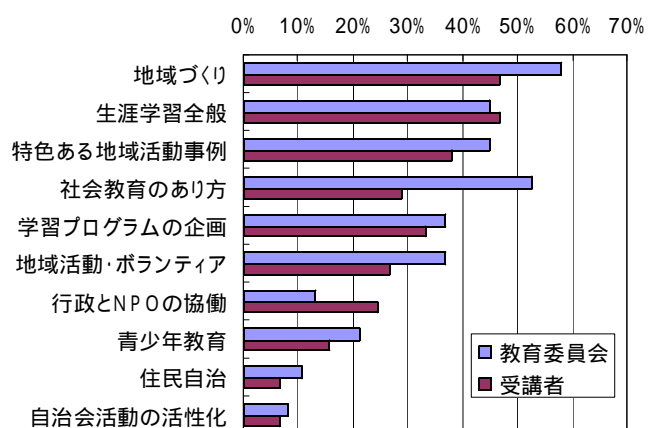


これらの結果によると、職員の主要な職務である講座や教室等の企画立案力を重視しているが、その裏付けとしての地域住民のニーズの把握とともに、行政として生涯学習の振興方を推進する上で必要不可欠な「社会の要請」や地域の課題を調査分析する能力も身に付けてほしいと考えていることが分かる。また、生涯学習と社会教育の基本的な考え方については、中央教育審議会答申(平成21年2月)の中で詳しく述べられているが、生涯学習振興行政の中核的な役割を担う社会教育行政の位置づけについての基本的な考え方を理解することを重視していると考えられる。

4 研修で学んでほしい具体的なテーマ

当センターの研修の具体的なテーマについて、本調査での回答と平成20年度研修受講者のアンケート結果を比較すると右表のとおりである。まず、本調査の回答として社会教育関係職員に学んでほしいテーマは、「地域づくり」(58%)が最も多く、次いで「社会教育のあり方」(53%)、「生涯学習全般」(47%)、「特色ある地域活動事例」(45%)、「学習プログラムの企画」(37%)となっている。

望まれる研修テーマ



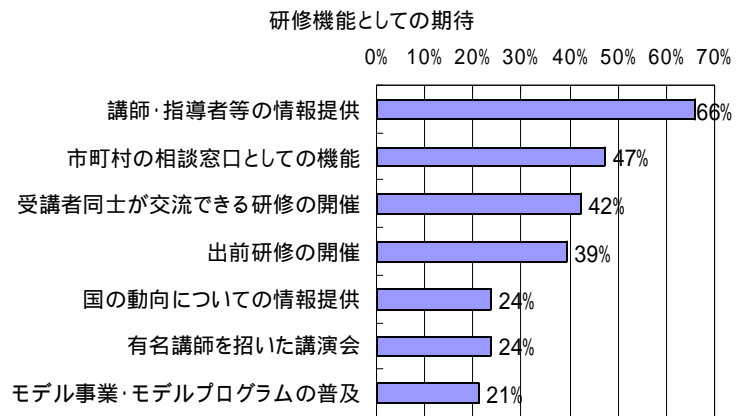
一方、「受講者」は、「地域づくり」「生涯学習全般」(47%)が最も多く、次いで「特色ある地域活動事例」(38%)、「学習プログラムの企画」(33%)、「社会教育のあり方」(29%)、「地域活動・ボランティア」(27%)となっている。

これらの結果から、いずれも「地域づくり」「生涯学習全般」「特色ある地域活動事例」の割合が高くなっており、生涯学習を通じた地域づくりや地域活動の重要性を重視していることが分かる。このことは、学習成果を地域づくりや地域活動に生かしていけるような、生涯学習の振興方策の推進の必要性を示唆していると考えられる。

5 研修機能としての期待

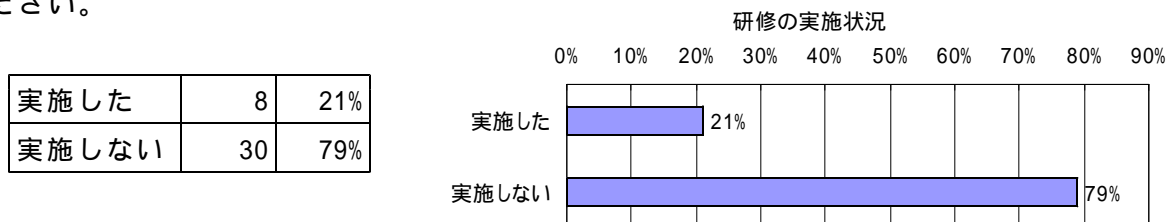
期待する内容として、「講師・指導者等の情報提供」(66%)が最も多く、次いで「相談窓口としての機能」(47%)、「受講者同士の交流」(42%)、「出前研修」(39%)となっている。生涯学習センターとして、地域の潜在的な指導者や実践者を発掘・登用することにより、指導者層の拡充を図るとともに、

生涯学習や社会教育に関する最新の動向や研修に関する専門的な情報を収集し、市町村や関係機関からの各種相談に迅速・的確に対応できる機能の充実を図ることが求められている。また、市町村の社会教育関係職員がネットワークをつくり、自主的な研修に励めるように、教育事務所と連携し、研修において職員同士が交流を図れるよう配慮していくことも必要であると考えられる。



集計結果

問 1 社会教育関係職員を対象にした市町村主催の研修の実施状況について、お聞かせください。

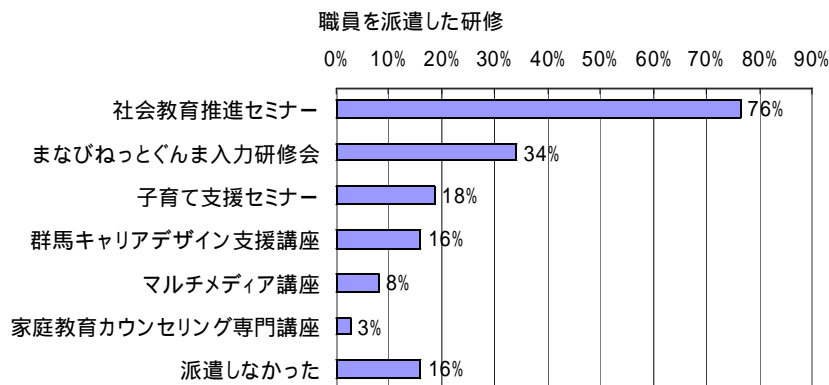


市町村等の主催する社会教育関係職員研修

前橋市	公民館職員研修 ・ O A (オフィスオートメーション) リーダー研修会〔年 2 回〕 ・ 全体研修会〔年 3 回〕 ・ 事業別研修会〔各事業グループごとに年 1 回〕 ・ 実績発表会〔各事業グループごとに年 1 回〕 ・ 初任者研修会〔年 1 回〕
高崎市	高崎市社会教育等関係職員研修会〔年 2 回〕 公民館主事研修〔年 1 回〕
伊勢崎市	社会教育関係職員等研修会〔月 1 回〕
邑楽郡 (板倉町 明和町 千代田町 大泉町 邑楽町)	郡社会教育部会全体研修会 (邑楽郡 社会教育部会主催)〔年 3 回〕 郡社会教育部会視察研修 (邑楽郡社会教育部会主催)〔年 1 回〕

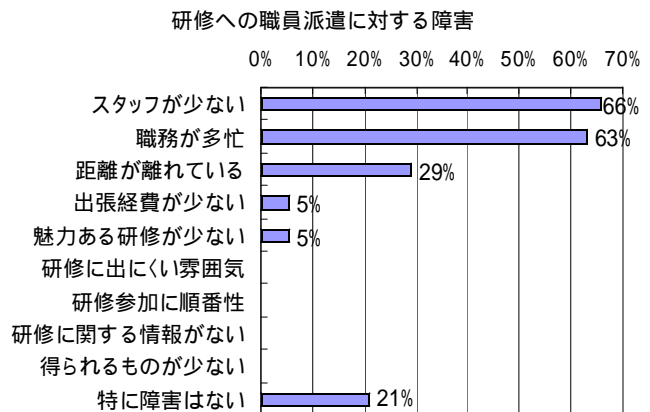
問 2 平成20年度県生涯学習センター主催の各種研修のうち、貴職員を派遣したものを選んでください。(複数回答可)

社会教育推進セミナー	29	76%
まなびねっとぐんま入力研修会	13	34%
子育て支援セミナー	7	18%
群馬キャリアデザイン支援講座	6	16%
マルチメディア講座	3	8%
家庭教育カウンセリング専門講座	1	3%
派遣しなかった	6	16%



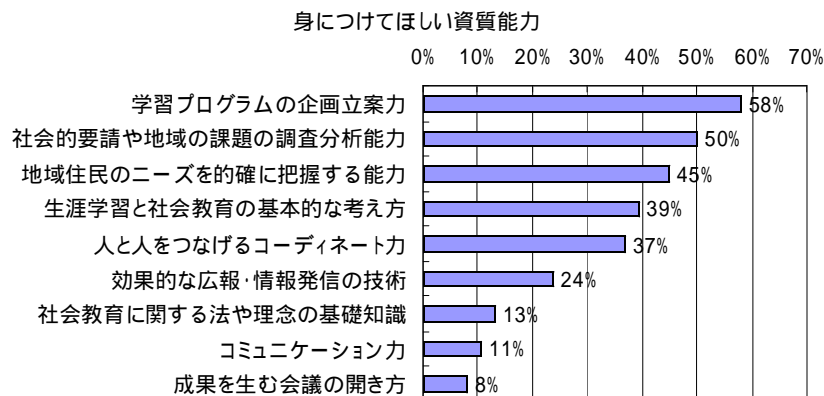
問3 県生涯学習センターの研修に貴職員を派遣する場合に、障害となるものがあればお選びください。(複数回答可)

スタッフが少ない	25	66%
職務が多忙	24	63%
距離が離れている	11	29%
出張経費が少ない	2	5%
魅力ある研修が少ない	2	5%
研修に出にくい雰囲気	0	0%
研修参加に順番性	0	0%
研修に関する情報がない	0	0%
得られるものが少ない	0	0%
特に障害はない	8	21%



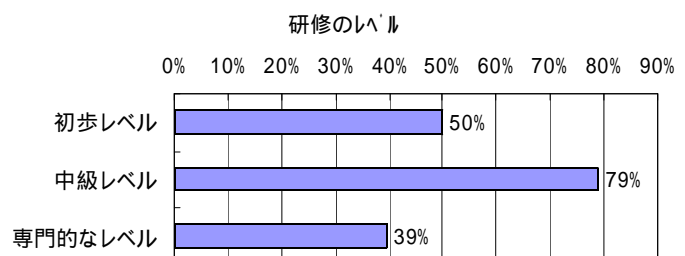
問4 今後、貴職員に「身に付けてほしい資質能力」は主に何ですか。(3つまで選択可)

学習プログラムの企画立案力	22	58%
社会的要請や地域の課題の調査分析能力	19	50%
地域住民のニーズを的確に把握する能力	17	45%
生涯学習と社会教育の基本的な考え方	15	39%
人と人をつなげるコーディネート力	14	37%
効果的な広報・情報発信の技術	9	24%
社会教育に関する法や理念の基礎知識	5	13%
コミュニケーション力	4	11%
成果を生む会議の開き方	3	8%



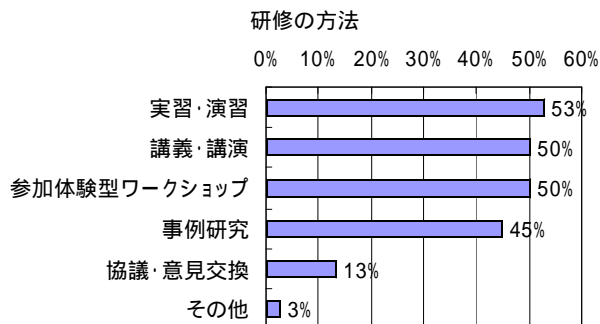
問5 県生涯学習センターの研修では、次のどのレベルを重視することが望ましいですか。(複数回答可)

初歩レベル	19	50%
中級レベル	30	79%
専門的なレベル	15	39%



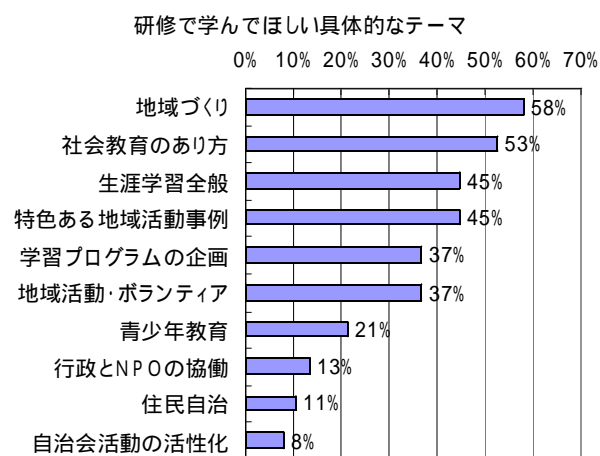
問6 県生涯学習センターの研修では、次のどの方法を重視することが望ましいですか。
(複数回答可)

実習・演習	20	53%
講義・講演	19	50%
参加体験型ワークショップ	19	50%
事例研究	17	45%
協議・意見交換	5	13%
その他	1	3%



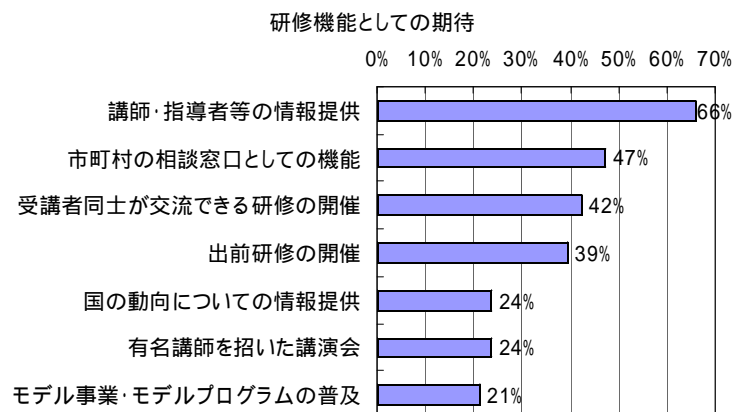
問7 県生涯学習センターの研修で、貴職員に「学んでほしい具体的なテーマ」は何ですか。(複数回答可)

地域づくり	22	58%
社会教育のあり方	20	53%
生涯学習全般	17	45%
特色ある地域活動事例	17	45%
学習プログラムの企画	14	37%
地域活動・ボランティア	14	37%
青少年教育	8	21%
行政とNPOの協働	5	13%
住民自治	4	11%
自治会活動の活性化	3	8%



問8 県生涯学習センターの研修機能として期待することは何ですか。(複数回答可)

講師・指導者等の情報提供	25	66%
市町村の相談窓口としての機能	18	47%
受講者同士が交流できる研修の開催	16	42%
出前研修の開催	15	39%
国の動向についての情報提供	9	24%
有名講師を招いた講演会	9	24%
モデル事業・モデルプログラムの普及	8	21%



問9 市町村の生涯学習推進に関して日頃考えていること、県生涯学習センターの全般的な役割や機能に期待することや要望について、お聞かせください。

研修講座について

- ・ 公民館における先導的な講座、先進的事例や成功事例に関する調査分析と解説、地域に密着した公民館における社会教育行政のあり方などに関する講座を企画してほしい。
- ・ 実践的な講座や他の参加者との交流が図れるワークショップ型の講座をお願いしたい。
- ・ 生涯学習から社会教育への筋道を明確に学ぶことのできる研修を開催してほしい。
- ・ 厳しい予算事情の中で、効果的な事業の選択と実施が求められており、指針となる実践事例等の情報提供をお願いしたい。
- ・ 限られた予算の中で住民のニーズにあった講座や企画が望まれているが、住民との協働で少ない予算の中でも工夫して地域づくりや家庭教育の充実を図れるような研修があればよいと思う。
- ・ 当町のような小規模町村の場合、「生涯学習を地域づくりにつなげる」ことは、ほぼ不可能なので、もっと基礎的な計画・企画・PRなどについての研修を多くしてもらいたい。教育事務所と連携し、担当者会議等と研修を抱き合わせるなどの工夫をしてもらえると参加しやすくなると思う。

人材育成について

- ・ 社会教育関係職員が日ごろ悩んでいること、取り組もうとしていることなどを解決できるような能力を育てられるとよい。そのためには、どんなことで悩んでいるのかを把握し、それを解決するような研修を組んだり、相談に応じたりしてほしい。
- ・ 生涯学習の役割と責務が増大する中で、いかに住民の要望に応えるべきか、また、どのように施策を展開すべきか。県生涯学習センターには、コーディネーターとしての役割と各市町村共通の重点施策のアドバイス等を要望する。
- ・ 職員研修の必要性は感じているが、スタッフが少なくなっているため、その時間を確保することが難しい。また、臨時職員が多く、どこまで研修機会を設けるべきか判断に迷う。正規職員については、経験、知識の点で個人差があり、「職員集団」というより個別のフォローが必要と考えている。

情報提供について

- ・国及び県内市町村の生涯学習、社会教育の動向を可能な限りきめ細かく情報提供してほしい。
- ・公民館事業を実施する際に、講師を探すのが大変困難なので、ぜひ講師の紹介機能を高めてほしい。「まなびねっとぐんま」の指導者情報は、個人情報保護のため氏名が掲載されていないので、同意が得られる人だけでも載せてほしい。
- ・国立教育政策研究所社会教育実践研究センターの講師検索データベースシステムの積極的活用を図りたいので、情報提供サービスの充実を期待したい。

その他

- ・現在の生涯学習支援の対象は、「身体が動く人」「会場に行ける人」等が前提となっているのではないかと考えている。今後は、さまざまな理由で、これまで十分に学習機会が得られなかった人々に対して、アウトリーチ施策をどのように進めればよいか、どのような対策が有効かを知りたい。
- ・我が国の主たる「働き手」とされる生産年齢、特に若い世代を対象にした事業や市町村を巻き込んだ事業、少子高齢社会に対応して、世代間交流を生かした地域の活性化事業等の実施を検討してほしい。

調査票

社会教育関係職員の研修に関する実態調査

調査への御協力をお願い

平成18年12月の教育基本法改正により新たに「生涯学習の理念」が規定され、平成20年2月には中央教育審議会答申「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策～知の循環型社会の構築を目指して～」が提言され、生涯学習振興行政の中核を担う社会教育行政の役割や重要性が再確認されました。

今後は、社会の変化に適切に対応するための県民の学習機会の充実を図り、また社会全体の教育力を向上させる取組等を推進するため、その支援者としての社会教育関係職員の専門性の向上が、より一層求められます。

本調査は、このような状況を踏まえ、特に社会教育関係職員の研修についての実態を調査し、今後の当センターにおける効果的な研修事業の企画や各市町村との連携協力に資するため、実施するものです。

御多用のところ、誠に恐縮ですが、本調査の趣旨を御理解の上、御協力くださいますようお願いいたします。

本調査では、「社会教育関係職員」を生涯学習・社会教育行政職員及び公民館等社会教育施設職員とします。

御記入に当たって

- ・ 回答は、全て回答票に御記入ください。
- ・ 選択項目は、該当する数字に 印をご記入ください。「その他」の場合には、さらに内容等を具体的に御記入ください。
- ・ 調査結果は、群馬県生涯学習センターのホームページにて公開いたします。

御提出に当たって

- ・ 群馬県生涯学習センター学習振興係まで、FAXまたはメールでお願いします。
- ・ 本調査票は、群馬県生涯学習センターのホームページ上にも掲載しておりますので、必要な場合はダウンロードの上、御使用ください。

URL : <http://www.manabi.pref.gunma.jp/gllc/index.html>

- ・ 提出は、平成21年2月6日（金）までをお願いします。

本調査に関する問い合わせ先

群馬県生涯学習センター 学習振興係（担当：進藤）

TEL 027-224-5700 FAX 027-221-5000

E-mail shindo-t@manabi.pref.gunma.jp

「社会教育関係職員の研修に関する実態調査」回答票

市町村名		回答担当部署	
回答者職名		回答者氏名	
電話番号		E-mail アドレス	

問1 社会教育関係職員を対象にした市町村主催の研修の実施状況について、お聞かせください。

1. 実施した → 実施した研修の名称をご記入ください。
 2. 実施していない

問2 平成20年度県生涯学習センター主催の各種研修のうち、貴職員を派遣したものを選んでください。

1. 社会教育推進セミナー (複数回答可)
 2. まなびねっとぐんま入力研修会
 3. 群馬キャリアデザイン支援講座
 4. 家庭教育カウンセリング専門講座
 5. 子育て支援セミナー
 6. マルチメディア講座

問3 県生涯学習センターの研修に貴職員を派遣する場合に、障害となるものがあればお選びください。

1. 職務が多忙 (複数回答可)
 2. スタッフが少ない
 3. 研修に出にくい雰囲気職場にある
 4. 研修参加に順番制がある
 5. 予算(出張経費)が少ない
 6. 魅力ある研修が少ない
 7. 研修講座に関する情報が得られない
 8. 研修で得られるものが少ない
 9. 距離が離れている
 10. その他(具体的に：
 11. 特に障害はない

問4 今後、貴職員に「身に付けてほしい資質能力」は主に何ですか。(3つまで選択可)

1. 生涯学習と社会教育の基本的な考え方
 2. 社会教育に関する法や理念に関する基礎知識
 3. 社会的要請や地域の課題等の調査分析能力
 4. 地域住民のニーズを的確に把握する能力
 5. 人と人をつなげるコーディネート力
 6. 学習プログラムの企画立案力
 7. 効果的な広報・情報発信の技術
 8. コミュニケーション力
 9. 成果を生む会議の開き方
 10. その他(具体的に：

- 問5 県生涯学習センターの研修では、次のどのレベルを重視することが望ましいですか。(複数回答可)
1. 初歩レベル
 2. 中級レベル
 3. 専門的なレベル
- 問6 県生涯学習センターの研修では、次のどの方法を重視することが望ましいですか。(複数回答可)
1. 講義・講演
 2. 事例研究
 3. 参加体験型ワークショップ
 4. 実習・演習
 5. 協議・意見交換
 6. その他(具体的に:
- 問7 県生涯学習センターの研修で、貴職員に「学んでほしい具体的なテーマ」は何ですか。(複数回答可)
1. 生涯学習全般
 2. 社会教育のあり方
 3. 地域づくり
 4. 住民自治
 5. 地域活動・ボランティア
 6. 行政とNPOの協働
 7. 自治会活動の活性化
 8. 特色ある地域活動事例
 9. 青少年教育
 10. 学習プログラムの企画
 11. その他(具体的に:
- 問8 県生涯学習センターの研修機能として期待することは何ですか。(複数回答可)
1. 受講者同士が交流できる研修の開催
 2. 出前研修の開催
 3. 市町村の相談窓口としての機能
 4. 国の動向についての情報提供
 5. 有名講師を招いた講演会
 6. 講師・指導者等の情報提供
 7. モデル事業・モデルプログラムの普及
 8. その他(具体的に:
- 問9 市町村の生涯学習推進に関して日頃考えていること、県生涯学習センターの全般的な役割や機能に期待することや要望について、お聞かせください。

御協力ありがとうございました